

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700034		
法人名	株式会社カマダグループ		
事業所名	グループホーム家族の家		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区一日市926番地		
自己評価作成日	平成28年11月7日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者さんをご自宅で暮らしておられる様な生活を送れる事をモットーとしている。・利用者さんにとり、安心して心地よい介護に努める。・近くに日本海・香住の町並みと絶好のロケーションに囲まれ、自然散策にも事欠かさず。また近くには香住病院・消防署もあり、緊急時においても安心・安全な好立地「香住山手地区」に位置しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①入居者本位の日常支援・「その方がその方として、その方らしく暮らしになれるようお支えます。」(基本理念)を基軸に、入居者の「安心と尊厳」が護られ、「その方のあるがまま」の日常が「地域住民の一員として」暮らせるよう職員が一丸となってその実現に取り組んでいる。②個々人が望む暮らしへのプログラム提供・家族やボランティアの協力による季節行事やレクリエーション(3B体操、田植え・稲刈り、おやつ作り:ぼた餅・桜餅・柏餅・バレンタインチョコ作り等、大正琴、コーラス他)、希望者による外出プログラム(出身地区へのお祭りや法要、ドライブ、花見等)や高校生との交流(お茶会、体験学習)等、望む日常となる支援が常態化している。③地域との係わり・町(役場)と連携しての障害者支援(日中一時支援)や緊急措置入所支援に協力している。④家族とともに・家族の訪問頻度が高く、入居者への支援が共同できている(家族ボランティアあり)。また、更なる連携強化のため「家族会」の発足が計画されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その方らしくお暮らしていただけるよう個別ケアを意識しながら接しています。悩んだ時の尺度としてすべての職員が、共有し実践しています。	事業所理念の核(個別支援重視)を基軸に、入居者が「安心と尊厳」の下、「その方のあるがまま」を受入れ「地域住民の一員として」暮らしていけるよう、その実現に向け全職員が一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるイベントの情報を得て、ご利用者と共に、地域に出向いて交流の機会を持っています。高校生体験活動、大正琴などのボランティアの方の受け入れを行っています。	近隣商店等での買い物、地域行事への参加・見学(花火大会、文化祭、神輿等)、高校生との交流(体験学習や行事でのボランティア協力)等、地域に溶け込んだ日常が常態となっている。	今後も、地域の方々の協力の下、地域における社会資源の一つとしての積極的な活動の継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事をできるだけ参加し、言葉を交わすことが、一歩ずつ理解や支援に繋がっていくのではないと思ひ実践しています。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、会議を開催し、活動内容や事故報告、消防訓練内容を報告し、参加者様よりいただいたご意見を取り入れ、サービスの向上に努めています。	会議では事業所よりの一方通行での情報発信ではなく、安全面・衛生面、個別ケアの精度アップ、BPSDへの対応、家族会の発足について等、多岐に亘るテーマを参加者で相談・検討し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者に参加していただき、判断が難しい事や困難な事例について随時、指導、助言をしていただいています。	町(役場)・包括支援センターとは普段から情報の共有に努め、直ぐに相談等を持ち込めるように関係を築いている。事業所を緊急入所支援、日中一時支援の「場」として提供し連携・協同している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、自分が行っているケアが、適切であるか注意しあって見過ごさないように意見交換しています。玄関の施錠は、行っていませんが、事故防止のため、人感センサーを取り付けています。	定例会議において勉強会・事例検討を実施し、日々の支援の状況を相互に確認し合いながら「入居者本位」の日々となるようその支援方法等(特に「言葉かけ」)の向上に努めている。玄関口は日中は開放している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	漁師町という地域柄、方言がきつく、不適切な言葉使いにならないように注意し合っています。虐待の未然防止として、職場会議において研修の機会を持ちお互いに注意しながら取り組んでいる。	職員は研修(外部・内部)を通じ、「不適切なケア」のレベルからの払拭に取り組んでいる。職員のメンタルヘルスにも留意し、「孤立化」しないようコミュニケーション重視での関係性を保持している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用しようと考えておられる方があり、職員が後見人と関わる機会があるので、関心を持ちながら職場内研修を行ないました。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方が1名おられる。職員は、認知症高齢者への支援の方法として制度活用が有用であることを理解しており、状況に応じて家族等への提案もおこなっている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の時におおまかに説明し、契約前に契約書、重要事項説明書を持ち帰っていただき、前もって目を通して質問など準備しやすいように配慮している。	事業所見学、質疑応答、アセスメント等により入居後の暮らしに不安感・疑問点が無い状態にして契約を締結している。契約時には関連書類を丁寧に説明し理解して頂いている(重度化・終末期への対応方針含)。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への毎月の通信でご利用者の近況報告や行事の写真を添えてお知らせしています。必要に応じて電話などで随時、連絡を取っています。意見箱も設置しました。	運営推進会議、家族懇親会、行事参加時、来訪時、電話、意見箱等、様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。頂いた意見等は直ちに検討し運営に活かしている(発信者へは必ずフィードバックしている)。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日々のケアの中で、その都度、意見や提案を聴取しています。できることは検討し、反映に繋げています。	定例会議において、業務改善に係る意見具申の場を設けており、全員参加での意思決定ができる環境となっている。また、管理者との個別面談も実施され提案等の吸い上げもなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月の職場会議に出席し、勤務状況や職場環境等の意見を聞き、状況把握に努めてくれている。何かあれば直ぐに掛け付け相談にのってくれているので安心して働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度の法人外研修は、応募するも外れたこともあり、全員参加とはいきませんでした。受講した内容を職場会議で発表しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会を設けておらず、今後は互いの事例等話し合い、意見交換できる場を設けていきたい。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中での発言や行動、表情から、本人の思いを汲み取れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にメールやFAX番号を伺い、ご本人の様子など初期には、まめに連絡をとるようにしています。要望を聞き出しやすい関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前の面接時、生活状況などの情報収集に努め、ご意向やご要望を確認しながら緊急性や優先順位を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者のこれまでの人生や経験されたことを教えていただく姿勢で接し、利用者さんの能力を活かした役割分担を図り、共に支え合う関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会来訪時には担当職員との面談も勧奨し、ご家族と利用者さんの絆づくりの一環として「共に考える姿勢」を保持したいと努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との面会や、住んでおられた場所へのドライブを行なっています。ご家族にも墓参りや自宅への帰省について協力を得て行なっています。	家族との外出(食事、通院等)・外泊(盆・正月等)、友人・知人の訪問、出身地区の行事(祭り、法要等)への参加・見学、季節の便りの投函等、今迄の生活感ができるだけ長く継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、お話し合っておられることを大切にしています。ご夫婦の方もおられますが、他のご利用者との関係は良好です。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族にその後の状況をお聞きしたり、入居先へ面会に行かせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、できること、できないことを把握するように心がけています。言葉で表せない方は、仕草や表情から気持ちを理解できるよう努めています。	入居者個々人との係わり(会話、言動、仕草・表情等)の中から、ご本人が望む暮らしとなるように、その思い・意向を汲み取っている。キャッチした情報は申送り、連絡ノート等により全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの日常的な会話の中で得られる情報やご利用中の記録でも把握し、支援に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活ペースで過ごしていただくため見守りのみを行う場合もあります。過度な介助をしないように配慮しています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のご利用者の様子はケース記録に記入していますが、介護計画書に沿った支援記録、モニタリングにつながるよう努めているところです。	入居者の思い・意向、家族の要望(聴き取りシートの活用)に介護職員の意見を踏まえ、ご本人の「今」にマッチした介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンスによりモニタリング・ケアプラン作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人ひとりの日々の様子を個別に記録しており、気づきや情報を共有し、ご本人の望むサービスに近づけるよう介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者はもとよりご家族にも満足していただけるよう、通院支援、買い物支援など、できる限りのお手伝いをしています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の出身地区のお祭りには、できる限り参加しています。地域の方の優しさに触れることで、地域の一員であることを感じていただいています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに公立病院があるため、入居時に転医していただいています。受診は、基本的に家族対応をお願いしていますが、困難なケースが多く受診支援しています。	定期受診、急変時の対応は家族と協同している。眼科・整形外科等は入居前からのかかりつけ医を継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調の変化があった際、併設のデイサービスの看護師に相談し、適切な処置や受診が受けられるようにしています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は家族との連絡を密にし、お見舞いに行き、本人の様子を知るようにしています。退院後の生活を家族と相談しながら対応しています。	この1年は入院者はおられなかったが、入院者がいる場合はご本人の不安軽減のため職員が面会に出向いている。病院とは早期退院を前提に連携して退院後のホームでの生活に不具合が生じないように努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療的処置(入院治療)が長期に必要なればグループホームでは対応できない事を伝えていきます。自然な形でのターミナルは行っています。	事業所で「できること」「難しいこと」を明確にし、重度化・終末期の状況が生じた場合には、ご本人にとって望ましいケア・「生」となるよう関係者(本人・家族、医療従事者、事業所)で相談・検討しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応については、消防署等指導の下に緊急マニュアルを作成し、実地訓練に取り組んでいます。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下での消防訓練を行い、全職員が防災意識を高められるように努めています。	定期(年2回)での通報・消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している(消防署の立会いあり)。有事には近隣地域の協力が得られる状況となっている。また、地域の防災訓練への参加も計画している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を行い、不適切な言葉使いやケアについて職員同士で注意しあっています。ご利用者の尊厳を尊重するため意識改革に取り組んでいます。	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心に充分配慮しながら、ご本人が今まで培ってこられた事柄(技能・趣味・習慣等)を日々の暮らしの中で希望に応じて体現できるよう支援している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の半数以上が、自己決定できるため、月に1回は、自治会を開き、食事のメニューや行きたい所、やりたいことなど、個々に意見を出し合える機会を持ち、要望に添えるように支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の都合に合わせることなく、ご家族や知人と過ごす時間を持ち続けていただくことを大切にしています。毎週、娘さんと外出される方もあります。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の移り変わりには、ご家族にお願いして衣類の入れ替えをしていただいています。行きつけの美容院を利用される支援やホームにて理容師によるサービスを受けられています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取入れたり、お誕生日には、本人のご希望の献立にしています。おやつは手作りに心がけ、後片付けも利用者と一緒にしています。	全食手作りの「食」を提供しており、調理の手伝い(包丁、皮むき、ゴマすり等)や洗い物等、望む部分を職員と会話を楽しみながら一緒に行っている。行事食や手作りおやつも楽しみ事となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を毎回、記入しています。食事量の少ないご利用者には、できる範囲ですが、好きな物を提供させていただいています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助により、口腔ケアの実施を行い、誤嚥性肺炎予防のためなど、清潔保持に努めています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、早めのトイレ誘導を行うなど、尿意等残存能力保持を大切に取り組んでいます。	入居者個々人の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、ご本人にマッチした方法でトイレでの排泄が行えるように支援している。夜間帯はポータブルトイレ、おむつ交換の方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけながら個々にあった緩化剤の調整をしています。果物を提供する回数を増やしたり、水分摂取量の確保に努めています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、一日おきに入浴の機会を持っています。三分の一の方が毎日、好きな時間に入浴されています。	週3~4回の入浴を基本にしているが、希望により毎日入浴される方もおられる。時間帯は設定せず、ご本人に決めてもらっている。家族と外湯に行かれたり、季節湯(柚子湯等)も喜んでおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方らしく、お暮らしいただけるよう個々の生活ペースで、休んでいただいています。居室の位置も配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切に服薬できるよう手渡しし、服薬されたことを確認している。薬が変更になった場合、体調に変化がないか職員全員で注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの特性、趣味を把握し、洗濯物たたみ、食器拭きなどの役割を持って頂いています。、野菜を切ったり、得意な巻き寿司作り、おはぎ作りもしていただいています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の要望により、タクシーに乗り、近くの娘さん宅へ行かれる外出支援を行っています。図書館に本を借りに行きたり、近くのスーパーまで散歩がてら買い物に行く外出支援もしています。	日々の散歩や買い物、庭の草花への水遣り等、外気に触れる機会が多い。季節の外出(初詣や花見等)や出身地区へのドライブや祭り見学、希望者による少人数での外出等、適度な刺激となる非日常も演出している。	入居者のADLの低下や個々人の想いも違い、個別対応にも工夫と労力が求められることと察します。今後も今迄同様に「利用者の思いに沿った支援」の継続に期待をしています。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方のみ少額、所持していただいておりますが、ご家族の希望で基本、立替えの方法で行っています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お誕生日、母の日など、ご家族から送られてきたプレゼントに、お礼状を書いていただく支援をしています。、不穩時には電話を架けさせていただけるよう事前にお願ひしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く開放的で風船バレーが楽しめる。季節感ほ折り紙で季節に合った花を作って飾っています。	スロープのついた玄関口、木のぬくもりが感じられる天井が高く開放感のあるフロア、畳敷きの掘り炬燵が設置されたスペース、季節飾りや「書」が貼付された壁面等、四季の変化も感じながらの日常が流れていく共用空間となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースに大き目の堀こたつがあり、3~4人の気の合った方たちが集り雑談されています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしさが出せるよう仏壇を持って来られたり、今まで、読まれていた新聞をとりたいと要望があれば、自由にいただいております。	使い慣れた馴染みの大切なもの(テレビ、ソファ、人形、飾りつけ、仏壇・位牌等)を持ち込み、また、畳を敷いて居心地の良い居室となるよう支援している。ADLの変化への対応も家族と相談しながら設え等工夫している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止に備えバリアフリーになっており、ドアはすべて引き戸方式を採用し、少しの力で開閉でき、洗面所等も幾分か低くなっており環境整備に努めています。		